

# 香川大学 大学教育基盤センターニュース

No.16

令和5年5月

*Higher Education Center  
Kagawa University*

香川大学 大学教育基盤センター  
〒760-8521 高松市幸町1-1  
Tel 087-832-1151~1153  
Fax 087-832-1155  
<https://www.kagawa-u.ac.jp/high-edu/>

## 目次

1. 2023年度（令和5年度）の大学教育基盤センターの課題について…………… 1
2. 全学共通教育の令和5年度実施に向けた研修会（FD）報告…………… 3
3. 令和5年度新任教員研修会報告…………… 4
4. 注目の全学共通科目のご紹介…………… 6
5. 注目のFDのご紹介…………… 8
6. 数理・データサイエンス・AI応用基礎プログラムについて…………… 13
7. 数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム  
四国ブロックシンポジウム報告…………… 15
8. 新スタッフからの一言…………… 16

# 1. 2023 年度(令和 5 年度)大学教育基盤センターの課題について

大学教育基盤センター長 高橋 尚志

1 年前の 2022 年に第 4 期中期目標期間が始まり、本学ではそれを期に全学共通教育カリキュラムの全面的な見直しを行いました。私達は私達なりの教養像を議論し、学生が自ら学び進むべき方向を見定めることのできる自己選択力を育むことを押し出し、いくつかの新たな科目を創設してスタートを切ったのです。本年はその歩みを着実なものとしていく重要な年であると考えており、私達は今年度の課題を以下の通り設定しました。

1. 第 4 期中期目標期間に開始した新全学共通教育カリキュラムの実施
2. DRI 教育の全学展開推進とアセスメントテストの円滑な実施
3. 分野横断型授業科目・ネクストプログラムの充実
4. 数理・データサイエンス・AI 教育事業の充実と四国ブロックへの展開
5. 外国語教育の実施体制整備およびグローバル人材育成プログラムの強化
6. 地域理解に資する教育の促進とコンテンツの充実
7. DRI 教育拡充に向けた教員の教授能力の向上

1 番目に掲げているのは、上に述べたことそのもので、地歩を確固たるものにすることに全力を傾けることです。特に 2 と 3 番目の課題については、中期計画において中心的なものとして全学で取り組むものとしており、その全学展開には当センターが先導する役割を担っております。

4 番目に関しては、昨年度より本事業の四国ブロックの代表校となり、実施組織はセンターとなりました。本学での教育プログラムを実施すること、またそれのみならず四国内にも普及展開することとなります。これについては 3 番と関連して、ネクストプログラムの DRI イノベーター養成プログラム I コースが応用基礎レベルとして国に認定されまして、強化を図るものとなっています。その上に、概算事業として認められた「危機管理学×数理・データサイエンス・AI 教育特別プログラム」の起ち上げと実施も課題として捉えています。

5 番目については、外国語の履修にかかる学生のニーズに応えるべく韓国語の陣容を強化したところですが、今後も多様なニーズに応えられるよう計画的に実施体制を整備することを課題としています。

6 番目の地域理解については、狭くとらえられていた定義を見直し地域理解に資する教育を目指すこととなりました。この観点からの教育の充実に力を入れつつ、かつ提供するコンテンツの継続的な見直しも行っていくことが課題です。

また、7 番目の課題については、教員の教授能力、特に DRI 教育拡充に向けてはそれぞれの能力育成が欠かせない課題です。さまざまな FD 活動は従来から展開しているところで

が、生成 AI など新たな課題として突きつけられている諸課題について、適切に対応できるよう充実させていくことが求められていると考えています。

専任兼任問わずセンターに関わる全てのセンター教職員一同、上述の課題や全学共通教育の円滑な実施に邁進していく所存です。どうぞよろしくご指導ご鞭撻をお願いします。

## 2. 全学共通教育の令和5年度実施に向けた研修会(FD)報告

日時：令和4年12月6日（火）13:00～16:10

場所：幸町北キャンパス 321 教室及びオンライン開催（Zoom）

次年度全学共通教育担当者を対象とした研修会が、講義室での対面方式と遠隔配信方式を同時に行うハイブリッド方式で開催されました。第1部の参加者は97名、第2部の参加者は71名でした。

【第1部】第1部では、(1) 第4期全学共通教育改革の概要（寺尾徹共通教育部長）、(2) DRI能力の可視化、数理DSの取り組み（高橋尚志大学教育基盤センター長）、(3) 遠隔授業に関するアンケート報告（蝶慎一大学教育基盤センター准教授）という3つの報告がありました。(1)では、全学共通教育改革の理念を振り返ると共に、新しい科目の受講状況を確認し、当面の課題を整理しました。(2)では、DRI検定の進捗状況が紹介されると共に、本学が、数理・データサイエンス・AI教育事業のリテラシープログラム、応用基礎プログラムに採択され、さらには、四国ブロックの代表校として認定されたことが報告されました。

(3)では、令和4年7月に実施した「遠隔授業に関するアンケート調査」の結果概要について説明がありました。

【第2部】第2部では、(4) ポイント制の導入とアンケート報告、学問への扉の実施報告（野村美加調査研究部長、科目領域選出コーディネーター、学問への扉担当教員）、(5) ライフデザインの実施報告（ライフデザイン担当教員）という2つの報告がありました。(4)では、野村調査研究部長から、令和4年度の1Qと2Qに開講された学問への扉で実施したアンケートの報告が行われた後、学問への扉担当教員から、授業の実施報告がありました。(5)では、ライフデザイン担当教員から、授業の実施報告がありました。

詳細は『香川大学教育研究』第20号所収の報告をご覧ください。香川大学学術情報リポジトリからPDF版をダウンロードすることができます。

[香川大学学術情報リポジトリ \(nii.ac.jp\)](https://nii.ac.jp)

(文責・西本佳代)

### 3. 令和5年度新任教員研修会報告

日時：令和5年4月6日（木）9:00～16:25

場所：教育学部 525 講義室（幸町北キャンパス 5 号館 2 階）

#### 【プログラム】

##### 午前の部 9:00～12:15

- |                                   |                                  |
|-----------------------------------|----------------------------------|
| 1. 学長挨拶                           | 笈 善行（香川大学学長）                     |
| 2. 香川大学 教育の現状と今後について              | 今井田克己（教育担当理事）                    |
| 3. 研究活動と教員の活動評価について               | 片岡郁雄（研究・産官学連携・<br>教員評価担当理事）      |
| 4. コンプライアンスを考える                   | 真鍋光輝（総務・労務担当理事）                  |
| 5. 香川大学の地域貢献の取組について<br>（産学官連携の推進） | 城下悦夫（産官学連携・特命担当副学長）              |
| 6. 情報セキュリティについて                   | 吉田秀典（危機管理・学術・特命担当副学長）            |
| 7. 各部局からの事務説明                     | 保健管理センター・学生支援センター・<br>ダイバーシティ推進室 |

##### 午後の部 13:30～16:10

- |                        |                    |
|------------------------|--------------------|
| 1. 午後の部の趣旨説明           | 松本洋明（大教センター能力開発部長） |
| 2. アイスブレイキング           | 佐藤慶太（大教センター）       |
| 3. 令和5年度全学共通教育運営体制について | 寺尾 徹（大教センター共通教育部長） |
| 4. 全学共通科目（学問への扉）の授業提案  | 野村美加（大教センター調査研究部長） |
| 5. 香川大学におけるFDの概要について   | 蝶 慎一（大教センター）       |
| 6. スキルアップ講座について        | 西本佳代（大教センター）       |
| 7. 新任教員お悩み相談           |                    |
| 8. 修了式                 |                    |

令和5年度の新任教員研修会が開催されました。新任教員研修会の出席者は例年に比べて若干には少ないものの10名のご参加がございました。

令和2年度以降の3か年ではコロナ禍の影響で、対面方式での実施ではあるもののグループワークなどを行わず、感染対策を充分に行いながら実施してまいりましたが、コロナの状況もだいぶ収まってきており、令和5年度では講義形式に加えてグループワークも無事再開する事ができました。午前中では学長のご挨拶の後、教育・研究・教員評価・コンプライアンス・地域連携・学生支援・保健管理・情報セキュリティ等について、それぞれ担当の理事・副学長・教員からご説明がありました。

午後は大学教育基盤センターが全学共通教育に関する説明を行いました。能力開発部長（松本）の趣旨説明の後、佐藤教員（大学教育基盤センター）よりアイスブレイキングとして相互の自己紹介・簡単なグループワークを実施しました。また寺尾共通教育部長と野村調

査研究部長から、それぞれ全学共通教育の運営体制と、全学共通科目の枠組みについて説明がありました。休憩を挟み、蝶教員（大学教育基盤センター）より香川大学におけるFDの概要についてご説明あり、また西本教員（大学教育基盤センター）よりスキルアップ講座について講義頂きました（特にここではアクティブラーニングについてMicrosoft Formsを活用した実演も含めて、講義頂きました。）。その後、各学部から選出された能力開発部委員により、新任教員お悩み相談の時間が設けられました。参加者から多くの質問があり、能力開発部委員が丁寧に説明・回答を致しました。



最後に修了式が開催され（高橋大学教育基盤センター長よりお話頂きました）、能力開発部長（松本）より「新任教員研修プログラム」の受講対象者にガイダンスを実施し、受講すべき意義と背景について説明を致しました。令和5年度の新任教員研修ワークショップは8月31日(木)、9月1日(金)の二日間、幸町キャンパスにて開催される予定であり、新任教員の皆さんにアナウンスがありました。

また研修会終了後では懇親会も再開され、ここでは学長および理事も参加され、参加者一同、緊張の面持ちではございましたが、楽しい時間を過ごしなが、香川大学の方針等について色々学んで頂けたかと存じます。来年度も本年度同様にコロナの状況が収束された中で、グループワークや懇親会が開催される事を願っております。

（文責：松本洋明）

## 4. 注目の全学共通科目のご紹介

### ■ 学問への扉「教育の“これまで”と“これから”を考える」

この授業は、学問への扉の中の「研究のみかた」に位置づく科目です。高校までの学びから大学での学びへの接続を考えて、研究の大まかな流れを経験してもらうことを意図しています。学生にとって身近でイメージしやすいという点から、研究テーマは教育に関することに限定したうえで、自分たちでリサーチクエスチョン（RQ）を設定し、根拠となる情報を集め、RQに対する自分なり解を探究します。RQの例としては、「宿題は必要か」「ICTに頼りすぎていいのか」など、身近ながらも深い問いが出されます。この授業では、文献等からも根拠情報を収集しますが、RQに対するヒントを与えてくれそうな教員を訪問することをメインの活動の一つに据えています。自分たちでアポをとり、研究者としての大学教員と出会います。最後は、RQから解までをまとめたポスターを作成し、学会風の発表会を行います。期間が短かったり、自分たちで調査や実験を行えないという限界はありますが、自分で問いを見出し解を探すという研究の過程の一端を楽しんでもらえるように授業を進めています。



(文責：岡田涼)

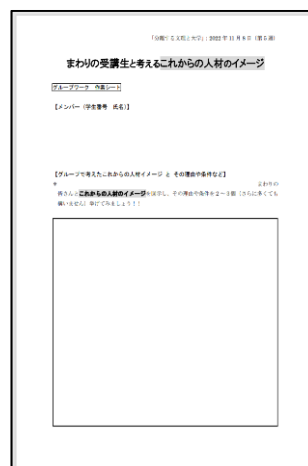
### ■ ライフデザイン「D（ダイバーシティ）&I（インクルージョン）入門」

D&I入門は、今年度2年目を迎え、履修者数は増加傾向にあります。本科目設置のきっかけは、令和3年10月、四国の大学として、香川大学が初のD&I推進宣言を行い、構成員一人ひとりの多様な個性や価値観、考え方を等しく尊重し、活躍できるために、「D&I推進の基本方針」を策定したことに遡ります。本科目では、D&Iについての基礎的な知識を学び、理解を深めるとともに、その知識を活用してD&I推進のための施策を考察できることを目指しています。学内外の教員によるオムニバス形式によって、幅広い視点からD&Iについて学べる科目となっており、学内からは植村先生（地域・産官学連携戦略室）、坂井先生（教育学部）、中島先生（創造工学部）、園部先生（経済学部）、長谷先生（医学部）、吉澤先生（地域マネジメント研究科）に、学外からは葛西先生（鳴門教育大学）にご担当をいただいています。本科目を受講した学生が、D&Iキャンパスプロジェクト等を通じて、学内外のD&I推進に取り組んでいくことを期待しています。

(文責：黒澤あずさ)

## ■学問基礎科目（特別・複合領域）「分離する文理と大学」

近年、大学における「文理横断・文理融合教育」の重要性が明示されています。「学修者本位の大学教育の実現に向けた今後の振興方策」（令和5年2月24日）において、「初等中等教育段階」での「文理分断からの脱却」が全学共通教育に求められていることが指摘されています（中央教育審議会大学分科会、2023、13-16頁）。このような共通教育をめぐる背景や高大接続の政策も見据え、「文理」と「分離」を科目名に掲げた本科目は、令和4年度から新たに開講しています。本授業のねらいは、大学における多様な学問や体系的な知の世界を理解するために、学生自身にこれまでの高校教育や大学受験までの「文理」の選択や経験を振り返りながら大学教育における学びや学問の融合、学際的な最新動向を知り、自らの問題として考えるきっかけとなることを目指しています。受講者数は78名（2022年度後期）にのぼっており、いわゆる文系、理系を問わず多くの学部・学科に所属する学生に受講いただいています。各週の主な授業内容は、高校までの勉強と「文理」、大学入試と「文理」（受験科目）、大学の教養・専門教育における「文理」（国内外のSTEAM教育）、ジェンダーと「文理」、就活・企業・産業界と「文理」（求められる人材像をディスカッションする）、アカデミア・研究と「文理」（学際的な研究）、2040年の「文理」で構成しています。加えて、いわゆる文系や理系の所属学部の受講生が混合するかたちでのグループディスカッションも積極的に採り入れています。右図は、実際に各グループ発表（第5週）で用いた「まわりの受講生と考えるこれからの人材のイメージ」の発表用のシートです。



### 【参考情報（URL）】

中央教育審議会大学分科会「学修者本位の大学教育の実現に向けた今後の振興方策」、令和5年2月24日（[https://www.mext.go.jp/content/230313-mxt\\_koutou01-000027826\\_3r.pdf](https://www.mext.go.jp/content/230313-mxt_koutou01-000027826_3r.pdf)）<2023年5月19日アクセス>

（文責：蝶 慎一）



## 5. 注目のFDのご紹介

令和4年度に新たに実施したFDをご紹介します。

- 講義名：令和4年度 SPOD 内講師派遣プログラム  
「学修成果の可視化から始めるカリキュラムの評価と改善」
- 日時：令和4年9月21日（水）10：30～12：00
- 場所：525 講義室（香川大学幸町北キャンパス5号館2階）
- 講師：竹中 喜一（愛媛大学 教育・学生支援機構教育企画室 准教授）
- 参加者：19名

本学の第4期中期目標・中期計画において、DRI教育を拡充するとともに、学修成果の可視化に取り組むことが明記されています。また、質保証の一環として、教学IR部を中心に基盤力テストを実施しています。このような観点から、学修成果の可視化に関する本FDが企画されました。

本FDでは、(1) カリキュラム評価の定義、活用方法、意義、(2) 学修成果の評価方針であるアセスメントプランの定義、指標例や具体例、(3) 直接評価と間接評価の定義、具体例、分析方法、そして、(4) 評価結果をもとにした改善方法やその具体例について、説明をしていただきました。



質疑応答では、教育の成果やその指標に関する議論や、本学の事例も交えながらアセスメントの方法について議論がなされました。

このように、本FDでご説明をしていただいた内容や、質疑応答での活発な議論の内容は、DRI教育における学修成果の可視化や、基盤力テストを実施していくうえで、重要なポイントになります。

（文責：小坂有資）

■講義名：「多様な視点から考える学生支援の動向とこれからの動き」

■日 時：令和4年9月21日（水）13：00～14：30

■場 所：525 講義室（香川大学幸町北キャンパス5号館2階）

■講 師：蝶 慎一（大学教育基盤センター 准教授）

■参加者：3名

学生支援をテーマに、歴史・定義・最新動向をしっかりと学べる講座です。これまでスキル系のFDを中心に開催してきた大教センターに新しい風が吹き込んだ、というのが第一の感想でした。講座では、(1) 学生支援の歴史、定義、動向、(2) コロナ禍の大学生の状況、(3) 学生支援における学習成果、アセスメントという順序で進められました。(2) のところでは、アメリカの大学生調査をもとに、日本の大学生の場合、どんな学生支援が必要とされているか、というテーマで意見交換も行われました。急いで付け加えておきますと、質疑応答の時間にも、活発な議論がありました。

これまでセンターでなかったタイプのFDである点のみならず、さらに蝶先生のご研究を踏まえた海外の最新動向を知ることができる点も、受講者にとってはうれしいポイントでした。私たち教員にとって必要なのは、スキルばかりではありませんので、今後もこういったタイプの講座が増えることを期待しています。



（文責：佐藤慶太）

■講 義 名：事例から学ぶ大学の全学的な数理・データサイエンス教育

■実施期間：令和4年11月1日（火）～11月30日（水）

■実施方法：オンデマンド（MicrosoftTeams）

■講 師：藤澤修平（大学教育基盤センター特命講師）

■参加者：61名

大学の全学的な数理・データサイエンス教育について解説するFD（オンデマンド）が開催されました。動画は、大学の全学的な数理・データサイエンス教育の概要について解説する前半部分、香川大学における全学的な数理・データサイエンス教育の事例を紹介する後半部分に分けることができます。前半部分では、AI戦略2019や文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育の全国展開の推進」等、知っておくべき基礎的な情報が提示され、後半部分では、香川大学で開講されているフルオンデマンド型のe-Learning科目「情報リテラシーB」及び「データサイエンス×危機管理科目群」が紹介されました。このFDで紹介された



情報が有益なのはもちろんなのですが、特筆すべきは、この動画が SPOD 加盟校にも公開され、他大学の教職員も香川大学の教職員と同じ期間に視聴することができたということです。SPOD 加盟校内での FD 動画の共有はまだまだ試行段階にあります。そうした中、本学において先駆的な取組ができたことはお伝えしなければなりませんし、その背景には、事務を担当する修学支援課のサポートがあったことも、この場を借りてご紹介できればと思います。

(文責・西本佳代)

- 講義名：交換される価値の集合から、贈与しあう有機的組織へ  
ー塩江町の地域コミュニティ再形成の実践から考える、近未来の田舎の形ー
- 日時：令和5年3月10日(金) 10:30~12:00
- 場所：412 講義室(香川大学幸町北キャンパス4号館1階) ※オンライン配信併用
- 講師：村山(立川) 淳氏(一般社団法人トピカ 代表理事)
- 参加者：35名

本 FD は、DRI 教育に関する FD として開催されました。DRI 教育では、新たな価値を創造することができる人材の育成を行っています。講師の村山(立川) 淳氏は、高松市塩江町で地域おこし団体「一般社団法人トピカ」(以下ではトピカ)を運営し、地域社会に新たな価値を創出する活動を行っており、さらに、本学の学生とも活動を行ってきました。

本 FD では、まず、トピカが主に活動している塩江町の基本的な情報、トピカが実施している事業に関する説明がありました。次に、本学の学生との協働事例にもふれながら、トピカの事業の一つであるアートプロジェクトの内容や、現在進めているアートプロジェクトについても説明をしていただきました。トピカのアートプロジェクトは、塩江の住民だけでなく、学生など多様な人々と協働しながら、新たな価値を創出している活動であり、これらの活動がどのように実践されているかを具体的に知ることができました。そして、このようなアートプロジェクトを通して、トピカが地域で実現したいこと、さらにはトピカが目指すコミュニティについても説明をしていただきました。

質疑応答では、トピカが目指すコミュニティやトピカの具体的な活動内容、さらには、トピカの活動に対する村山(立川) 淳氏の思いに関する質問などもなされ、非常に活発な議論が展開されました。

(文責：小坂有資)

■令和4年度FDスキルアップ講座実施報告

例年開講しているFDスキルアップ講座を、令和4年度は以下のとおり実施しました。

講義名：充実させよう！アクティブラーニング型授業－話し合い・教え合いの技法－

日 時：令和4年9月21日（水）14:40～16:10

場 所：幸町北キャンパス 525 講義室

講 師：佐藤慶太（大学教育基盤センター）

参加者：4名

講義名：充実させよう！アクティブラーニング型授業－図解・文章作成の技法－

日 時：令和4年9月22日（木）13:00～14:30

場 所：幸町北キャンパス 525 講義室

講 師：西本佳代（大学教育基盤センター）

参加者：7名

講義名：充実させよう！アクティブラーニング型授業－問題解決の技法－

日 時：令和4年9月22日（木）14:40～16:10

場 所：幸町北キャンパス 525 講義室

講 師：三宅岳史（教育学部）

参加者：6名

講義名：事例から学ぶ問題発見・解決型授業のコツ

日 時：令和4年9月22日（木）16:20～17:50

場 所：幸町北キャンパス 525 講義室

講 師：小坂有資（大学教育基盤センター）

参加者：3名

講義名：学生の学びを促すシラバスの書き方

日 時：令和4年12月26日（月）10:30～12:00

場 所：幸町北キャンパス 523 講義室

講 師：蝶慎一（大学教育基盤センター）

参加者：2名

講義名：基礎から学ぶ学習評価法

日 時：令和4年12月26日（月）13:00～14:30

場 所：幸町北キャンパス 523 講義室

講 師：佐藤慶太（大学教育基盤センター）

参加者：3名

講義名：学生参加型授業の技法

日 時：令和4年12月26日（月）14:40～16:10

場 所：幸町北キャンパス 523 講義室

講 師：西本佳代（大学教育基盤センター）

参加者：3名

講義名：シラバス・授業を改善しよう！

日 時：令和4年12月27日（火）10:00～15:00

場 所：幸町北キャンパス 523 講義室

講 師：蝶慎一・西本佳代・佐藤慶太（大学教育基盤センター）

参加者：1名

講義名：事例から学ぶ授業外学修促進のコツ

日 時：令和4年12月27日（火）15:30～17:00

場 所：幸町北キャンパス 523 講義室

講 師：小坂有資（大学教育基盤センター）

参加者：3名

講 義 名：「アカデミック・スキル」をどう教えるか

実施期間：令和5年3月6日（月）～9月30日（土）（オンデマンド・実施中）

講 師：佐藤慶太・西本佳代・蝶慎一（大学教育基盤センター）、高水徹（インターナショナルオフィス）

## 6.数理・データサイエンス・AI 応用基礎プログラムについて

香川大学では、全学部生を対象とした応用基礎レベルの数理・データサイエンス・AI 教育プログラム「数理・データサイエンス・AI 応用基礎プログラム」<sup>1)</sup>を実施しています。このプログラムは、過去の大学教育基盤センターニュース<sup>2)</sup>で紹介した「数理・データサイエンス・AI リテラシープログラム」の上位に位置し(図1)、数理・データサイエンス・AI の知識・技能を活用して課題を解決するための実践的な能力を育成し、学生自らが専門分野に必要な数理・データサイエンス・AI の応用基礎力を習得することを目指しています。

本教育プログラムの修了要件は、副専攻プログラム「DRI イノベーター養成プログラム(I コース)」を修了すること(I コースのコース対象科目<sup>3)</sup>を12単位以上修得すること)です。特に表1の3科目は、四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構が提供している、数理・データサイエンス・AI 教育と危機管理分野を掛け合わせた本学特有の e-Learning 科目であり、I コースを修了するための選択必修科目となっています。これら科目の他にも統計学、情報科学、ビッグデータ、AI、ICT、IoT 等と関連のある内容を含む授業を受講することで、本プログラムを履修する学生は基礎的な数理・情報に関する能力を獲得できます。

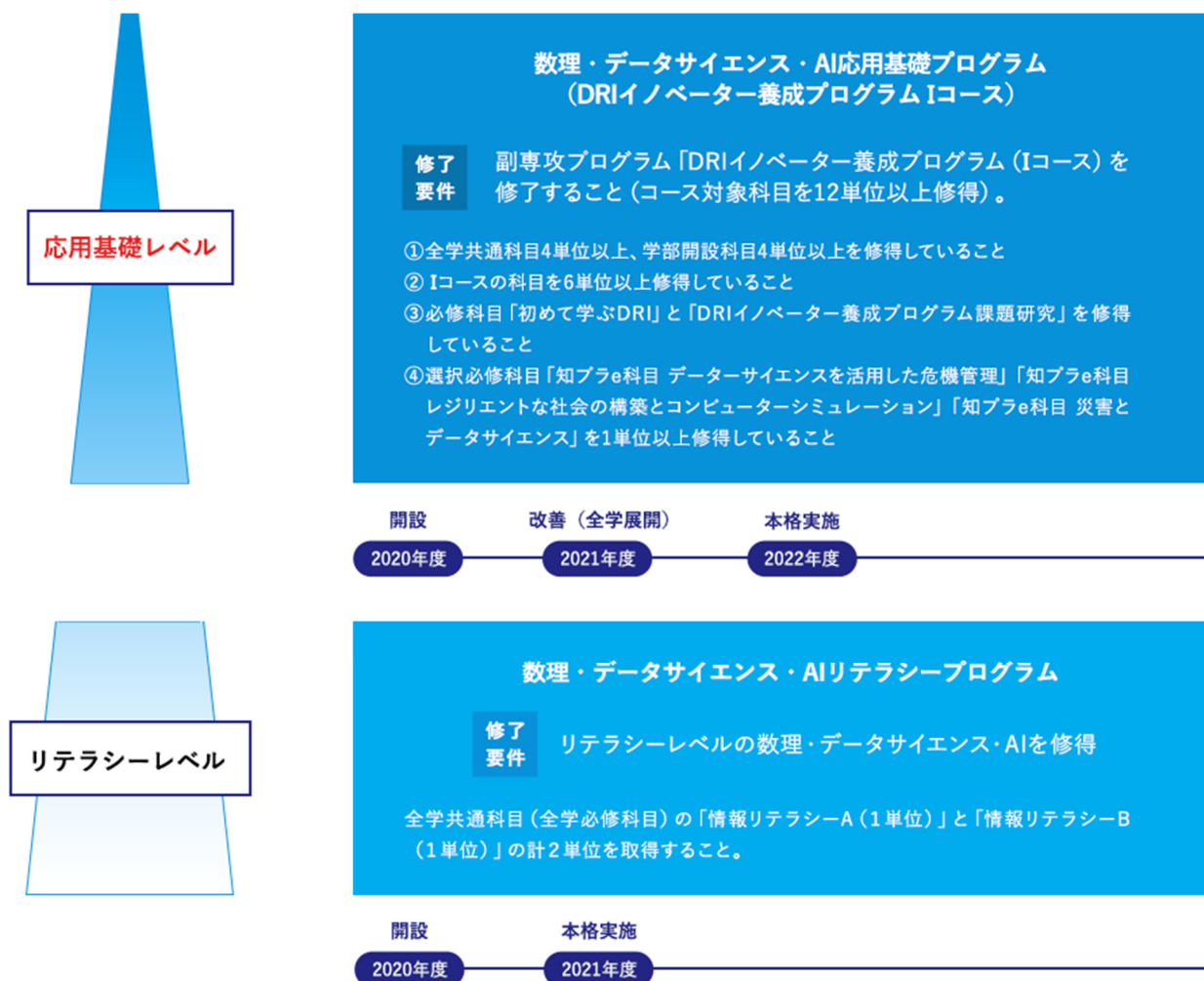


図1 数理・データサイエンス・AI 教育に関する計画

表1 DRI イノベーター養成プログラム (I コース) の選択必修科目

授業科目名称	概要
知プラ e 科目 データサイエンスを活用した防災・危機管理	日本は地震や台風など大きな自然災害による被害を受けています。環境変化により従来にない大規模自然災害が発生する可能性が高まり、さらには社会システムの高度化・複雑化・国際化にともない、これまでにない災害が発生する危険性も増大しています。本講義では、自然災害の軽減を念頭にデータサイエンスによる防災・危機管理のあり方と、地域における災害に対する安全・安心について学びます。
知プラ e 科目 レジリエントな社会の構築とコンピューターシミュレーション	コンピューターシミュレーションは、「第3の科学」とも言われ、自然科学、工学、経済学、社会科学における理論・システムを数理モデルで表現し、コンピューターを用いて仮想実験や事象予測を行う技術です。本講義では、レジリエントな（強靱化）社会構築におけるコンピューターシミュレーション活用事例を挙げ、その重要性和必要不可欠であることを学びます。
知プラ e 科目 災害とデータサイエンス	防災に活用できる科学的なデータとしては、災害に関するデータと、それを観測するテクノロジーについて、災害前（災害が起こっていない日常の時点と、災害が起こる直前）と災害後（直後、そしてライフライン復旧が求められる事後）という2つのステージでの議論が重要です。本講義では、こうした「災害」に係るデータの活用方法について学びます。



なお、リテラシープログラムに続き、応用基礎プログラムの取り組みもまた、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」<sup>4)</sup>に認定されています（認定日：2022年8月24日、有効期限：2027年3月31日まで）。「数理・データサイエンス・AI を活用して課題を解決するための実践的な能力を育成するために必要な知識及び技術を体系的に修得させる正規の課程（教育プログラム）」として、香川大学学生の数理・データサイエンス・AI に関する知識・技能の向上にいっそう寄与することを期待しています。（文責：藤澤修平）

参考文献（参照：2023/5/26）

- 1) 香川大学, 数理・データサイエンス・AI 応用基礎プログラム,  
<https://www.kagawa-u.ac.jp/mmdsai/program/advanced/>
- 2) 香川大学, 大学教育基盤センターニュース No.14,  
<https://www.kagawa-u.ac.jp/files/3916/5404/8439/14.pdf#page=20>
- 3) 香川大学, I コース科目群 (2023 年度),  
[https://www.kagawa-u.ac.jp/files/3316/8005/7676/I\\_2023.pdf](https://www.kagawa-u.ac.jp/files/3316/8005/7676/I_2023.pdf)
- 4) 文部科学省, 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度 (応用基礎レベル),  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/suuri\\_datascience\\_ai/00002\\_00003.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/suuri_datascience_ai/00002_00003.htm)

## 7.数理・データサイエンス・AI 教育強化拠点コンソーシアム 四国ブロックシンポジウム報告

令和5年3月30日（木）に香川大学イノベーションデザイン研究所において、数理・データサイエンス・AI 教育強化拠点コンソーシアムの四国ブロックにおける産官学ネットワークの構築と活動内容の周知を目的とした「数理・データサイエンス・AI 教育強化拠点コンソーシアム四国ブロックシンポジウム」を開催しました。

本シンポジウムは「四国ブロックにおける多層的なネットワーク構築にむけて」をテーマとして、四国ブロック代表校である香川大学が主催し、大学関係者及び企業関係者90名（会場参加42名、オンライン参加48名）にご参加いただきました。

寛善行学長による開会挨拶の後、大学教育基盤センター高橋尚志センター長から数理・データサイエンス・AI 教育強化拠点コンソーシアムの概要や四国ブロックの活動内容、本シンポジウムの趣旨説明が行われました。

次に、文部科学省高等教育局専門教育課木谷慎一課長補佐から、「数理・データサイエンス・AI 教育の推進について」と題して、数理・データサイエンス・AI 教育の全国的な動向と、認定制度について特別講演が行われました。続いて、大阪大学数理・データ科学教育研究センター鈴木貴副センター長より、「応用基礎レベルモデルシラバス（理工系）について」と題して、特定分野校と作成した応用基礎レベルモデルシラバス（理工系）について基調講演が行われました。



続いて、徳島大学教養教育院/デザイン型 AI 教育研究センター大藪進喜准教授より、「徳島大学におけるデータサイエンス・AI 教育活動と地域貢献」と題して、数理・データサイエンス・AI による学内教育、地域への貢献、研究開発の推進について、次に、徳島文理大学理工学部山本由和教授より、「徳島文理大学における数理・データサイエンス・AI 教育の紹介」と題して、リテラシーレベル、応用基礎レベルの認定を目指し学内での計画や取り組みについて、最後に、株式会社伊予銀行ビジネスマーケティング部山口直人課長代理より、愛媛大学データサイエンスセンターと数理・データサイエンス・AI を活用した取り組みについてのご講演が行われました。

最後に本学今井田克己理事（教育担当）の閉会挨拶により閉会しました。

コンソーシアム関係者のみならず、本コンソーシアム会員校以外の公立・私立大学や企業関係者からの多数参加いただき、数理・データサイエンス・AI 教育推進に関する認知が深まり、今後の事業推進や交流が期待できるものとなりました。

※本記事は、2023年4月10日に香川大学HPの「ニュース・トピックス」に掲載された内容の転載です。



## 8. 新スタッフから一言

大学教育基盤センター特命講師 谷 崎 美津子



令和5年度より大学教育基盤センターの韓国語特命講師に採用されました谷崎美津子と申します。

韓国ドラマに負けず劣らずの韓国留学・生活を経て得たものは、『梨泰院クラス』のような不屈の精神でも、『愛の不時着』のようなありえない偶然と試練を乗り越えた愛でもなく、学生に話を続けても尽きない韓国あるあると、韓国人とじかに接することで学べたコミュニケーション能力でした。

ネットが発達し海外に行かずとも、多くの情報が手に入れられる時代ですが、国外に出て現地に行ってこそ体感し学べる様々なことがあります。今後、韓国語学習や韓国留学への準備など通じて、香川大学の学生が新しい世界へ一歩踏み出す一助となるよう努めていきたいと考えております。

どうぞよろしくお願いいたします。



原稿を募集しています。

☆全学共通科目を担当して感じたことや意見等があれば、是非投稿してください。

★各学部が取り組んでいる教育改革も、積極的に取りあげていくつもりです。

☆宛先は、紀要編集委員会（修学支援課）までお願いします。